



AI・IoT等分科会

会場 メルパルク京都 (5F 京極・八坂) [京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13]

交通 京都市営地下鉄烏丸線「京都駅」5番出口より徒歩1分

JR「京都駅」烏丸中央口より徒歩2分

10月25日(金) プログラム(13:20開始)

13:20

① 安全文化の深化に向けた取り組み

トヨタ自動車(株)
安全健康推進部 安全衛生室 主任

坂尾 耕太

近年の災害件数下げ止まりを脱却するため、統計的手法を用いて災害データを解析し、災害の傾向を把握した。その上で、新技術を活用し作業観察や教育の重点活動を実施。一人ひとりに寄り添い意識を変えて、安全文化の定着と更なる深化に向けて取り組んでいる。

13:40

② 鉄道工事従事者訓練シミュレータを活用した労働災害防止の取り組み

東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社
設備部 電力課 主席

堰合 悠史

鉄道の重大労働災害である『触車、感電、墜落』のリスクのある電車線作業で普段の作業だけでなく、鉄道工事従事者訓練シミュレータを活用した労働災害防止に取り組んだ。

14:00

31

次ページにつづく



AI・IoT等分科会

14:00

3 AI画像認識技術を用いた不安全行動監視技術の開発

JFE スチール(株) 知多製造所
総務部 安全健康室 主任部員

小川 晃弘

稼働機械への巻き込まれ防止技術について、立入禁止範囲が変動するところでは、従来センサーの適用が困難である。そこでAI画像認識技術を用い、作業員および変動する立入禁止範囲の検出を行い、その組み合わせにより変動する立入禁止範囲への作業員の侵入検知を可能とした。

(14:20～14:30 休憩) 14:30

4 「施工計画の見える化（視覚化）」による新しい安全への取り組み

名工建設(株) 教育館移転改築作業所
建築工務部 工務課 作業所長

魚住 将之

施工の効率化やICT技術強化のため導入した「施工BIM」で作られる三次元のデジタルモデルを活用し「工事の見える化」を図り、施工計画時のシミュレーションによるリスクの洗い出し、要注意箇所の見える化を行うとともに、現場での安全指導に積極的に活用する取り組みを紹介する。

14:50

5 ICT機器を活用した搬送設備の遠隔監視機能導入による災害リスク低減

JFE スチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区)
制御部 冷延制御室 リーダー

浦上 達郎

私たちはコイル自動搬送(以下AVCという)装置の制御機器保守を担当している。AVCトラブル調査時に感電・挟まれ等の災害リスクをとまなうため安全な場所から調査作業を行えるよう無線通信機器などのICTを導入し、リスク低減活動を行ったものである。

15:10

6 VRを活用した訓練シミュレータを用いた体験型訓練の導入について

東日本旅客鉄道(株) 東京工事事務所
安全企画室 課員

外山 洋文

鉄道工事において、列車の安全や作業員の安全を守るためにひとりひとりがルールを遵守することが大変重要である。そのためには、教育訓練が大切であり仕事の本質を学ぶ教育、実践的な体験ができる教育を目的として、当社ではVRを活用した訓練シミュレータで教育を行っている。

15:30